



(2) 救助総合訓練

陸・海・空さまざまな救助活動現場に立ち向かう救助隊員の姿をご覧ください。

ア 水難救助訓練

海上に漂流している人を、消防ヘリコプターと消防救助艇が連携を図り救出します。

本部特別高度救助隊の操作するドローンにより、海面に漂流している要救助者を発見後、消防救助艇「ゆめしま1号・2号」が救出に向かい、水難救助隊員2名が海面に入水し、確保します。

続いて、上空の消防ヘリコプターから航空救助隊員1名がホイスト降下し、要救助者をホイストにより吊り上げて、消防ヘリコプターに収容します。



イ 大規模災害救助訓練

救助隊員が、閉鎖された扉や高塀といった障害物を次々と破壊・突破し、救助活動現場に向かいます。

障害物を突破した救助隊員と、別ルートから進入してきた車両救出部隊が合流し、さまざまな救助活動を展開します。

倒壊した鉄筋コンクリートの建物では、重機により障害物を除去するとともに、瓦礫の中に閉じ込められた要救助者を画像探査カメラにより探し出し、救出の障害となる瓦礫を削岩機により破壊後、救助隊員が内部に進入し救出します。

多数の事故車両に閉じ込められたり、下敷きになったりしている要救助者を、救助隊が救助工作車のクレーンやレスキューツールなどの各種救助資器材を駆使して救出します。

また、災害活動支援隊も協力し、重量物を除去して要救助者を救出します。

救出した負傷者は、救急車に収容または応急救護所へ搬送します。

応急救護所では、救急隊と災害活動支援隊が負傷者にCPR（心肺蘇生）を行った後、救急車で搬送します。

悪路により消防車両の接近が困難な場所では、大型水陸両用車で負傷者を搬送します。



ウ 高層建物救助訓練

高層建物の屋上にいる負傷者の救助活動を想定した訓練です。

最初に空気ボンベの圧力で、救助活動に必要なロープを数十メートル先へ飛ばすことができる「救命索発射銃」を建物屋上へ向け発射（空撃ち）し、続いて担架に収容された負傷者を、消防ヘリコプターから降下した航空救助隊員1名が消防ヘリコプターのホイストを活用して、機内へ収容・救出し搬送します。

その後、救助活動を終えた救助隊員が、降下に必要なロープを設定した後、懸垂降下により屋上から脱出します。



5 一斉放水

陸上では消防ポンプ車20台による色水放水やみおつくし放水、海上では消防艇「まいしま」によるフェニックス放水などを行い、出初式のフィナーレを鮮やかに彩ります。

(放水時間：無色 30 秒→色水 120 秒→無色 30 秒)



6 市民と消防ふれあいコーナー

ピロティ広場（屋外）では、消防車両等の展示、起震車による地震体験、水消火器による放水体験を実施します。

また、メインゲート（I TM棟とオズ棟北館の2階連絡通路）では、バッテリーカー乗車体験を実施します。

さらに、セントラルアトリウム（I TM棟2階）では、子ども用防火衣を着用しミニ消防車との記念撮影、応急手当体験、ふれあいステージコーナーを実施します。ふれあいステージコーナーでは、阿倍野防災センター「あべのタスカル」のイメージキャラクター「レスキューパンダ たすけるくん」による消防クイズや、消防職員による火災実験を行います。

